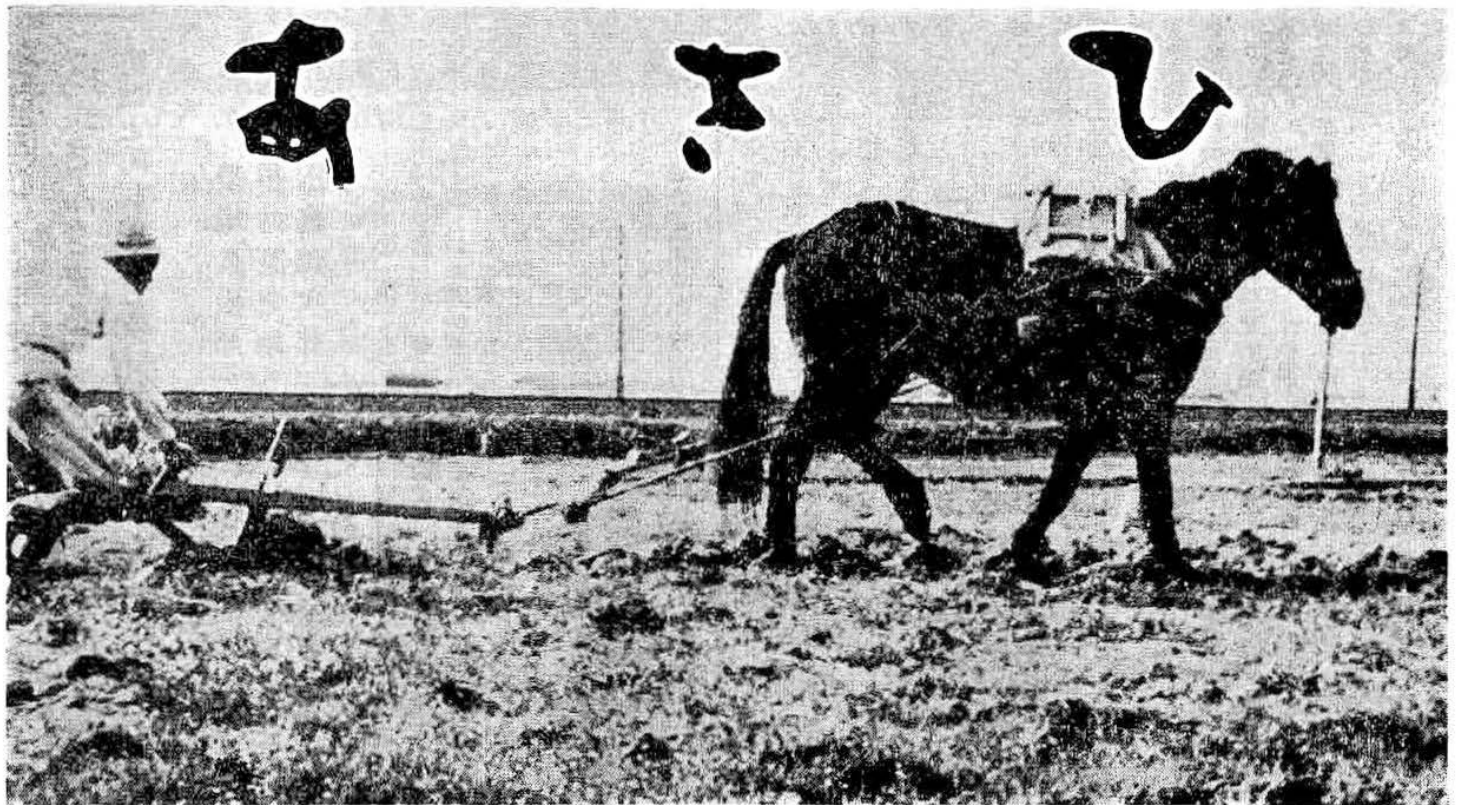




農業のうつりかわり

いまは所得百万円台の農家に

冬のながい北陸の雪が消えると春がかけ足でやってくる。耕す牛馬も鈴をつけてシャンシャンと嬉しそうである。早乙女の田植え唄がのどかに春風にのって流れる。赤いたすきと袖なしは娘さんか、花嫁さんか。黄粉をまぶした田植えおにぎりはおいしかった。こういつた田植え風景もトラクターかうなりコンバインが活動する現在の農村では見られなくなった。

かんたんではあるが、根気のいる農事作業には必然的にその作業唄があったはずである。田植え、稲かりもみすり、麦うち唄など。然し朝日町では大家庄の田植え唄の他は殆んどきかれないう。昨秋、中央公民館であった民族資料展で、この農機具は何に使ったかわらないという農村青年もあれば、自分たちが若い頃に使ったことがあると、昔を懐しんだ老人もあった。

藩政時代も元禄をすぎると、経済の主導権が町人の手に移行した。各藩でも殖産興業という経済のたて直しにやつきとなったが、手とり早いのが農地の開発であった。泊の十村役伊東彦四郎が、莫大な藩の資金を投じて黒部用水を作り愛本の原野を開墾した。加賀の豪商銭屋五兵衛の



私闘も、河北潟の埋め立て工事がかかっている。こうして開墾された土地に、新田とか、新という地名をつけた。朝日町にも新田、新という地名があるが、面積はあまり広くなかったようである。

収かくされた米は、泊駅かまた開通されなかった明治四十年代頃までは自給として船で搬出された。大船の汽船まではしきで貨客かはこぼれ、米はかますなどの薬加工品などと共に主として北海道に移出され、向うからは鰯かす、鰯かすなどの魚肥がきた。大屋にはそれらの貨物を入れる倉庫があったことを記憶している。その頃には化学肥料はあるにはあったが、高価なので追肥に少量やる程度で、主として魚肥、大豆かすきゆう肥、下肥えなどであった。

米価については藩政時代は、武士と農民は米によって生活していたから、米価は高い方を希望するが、凶作の年は高騰し豊作の年は下落した。幕府はあまつた米を買占めて米価の維持に努力したが、当時の幕府の経済力ではいかんともすることができなかつた。他の商品は年と共に上昇するが米価がそうでない。

封建制度の崩潰はこんなころにその原因があった。慶応年間の調査によると、朝日町では約一万五千石の米がとれている。現在では六万二千石もとれているから明治初年頃を二万石として、明治以後百年で約三倍の増産になる。然し農地開放までな

かい間農民は約半分、藩政時代はそれ以上の苛酷なる年貢米に苦しめられてきた。

政府はこんと農業白書をだした。

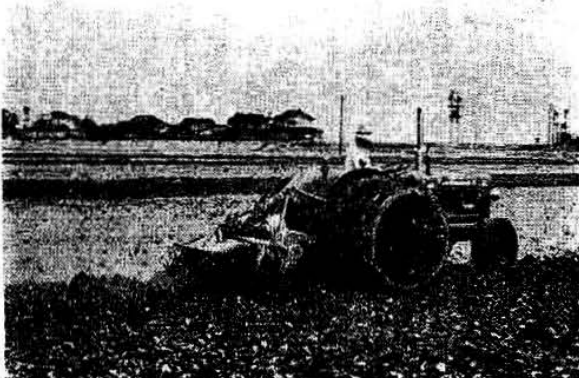
白書は三十六年に農業基本法が制定されてから、国の農業政策の方向を示すものとし毎年国会にだされる。今度の白書は四十二年から四十三年にかけて、農村はかつてない繁栄に恵まれたが、それは主に米価など農産物の価格の値上りと、出かせぎなど農業以外の収入増によるものたとして、農家の所得はこの年度に一日当り百三万円になり初めて百万円の大台を越えたとしている。

(大菅達二)

標題写真

馬耕風景

写真は機械化された近代的農業



各地区の

区長さんきまる

町政と町民のかけ橋

区長会役員

会長	愛場久太郎
副会長	長井直之助
幹事	水島畑次郎
山崎中	堀川清
安達義雄	大家庄
金森松	南保
大森常次	五箇庄
狩谷常作	泊一区
水島畑次郎	泊二区
西井達吾	泊三区
愛場久太郎	笹川
長井直之助	宮崎
扇谷九左門	境
水島源太郎	

婦人会活動



文 部 省 委 嘱
婦人学級を終えて
— 大家主婦人会 —

大家主婦人会は、本年第二回目の文部省委嘱の婦人学級を開設したが本年度は「市民性を高め生活に計画をもとう」を主題として、生活設計を主たる研究項目としてこの一年間学習を進め、このほど学級を終了したが、その反省として左のような成果を挙げたことを認めた。

1. 国や県、市町村の委嘱の場合は関係諸団体からの補助があるため講師の招へいや、地域外の視察学習、その他いろいろの面において学習を効果的に行なうことができた。

2. 近代的建築を誇る地区農協会館を利用したため、照明や暖房はもろろん、暗幕装置まで完備され、視聴覚学習の面においても極めて

朝日町中央農協 大同合併に踏みきった 五農協 四月一日発足



写真 合併予備契約調印式風景

スムーズに行なわれた。

3. 急激な社会の変化に伴い、特に農村では、家族の生活週期にもとづく家計の長期設計が必要であり全体の上に立つての短期設計及び予算生活の重要さを、各個人が体験を通して一層よく理解することができた。

4. 消費者としての立場から、商品

の購入技術の可否が大きく家計に影響するため、その選択と使い方の科学的な知識の必要なことを具体的によく学習することができた。

5. 郷土文化の学習では、館の城址や柏原家墓所、耕地整理の先覚者、藤井十三郎氏等のお話を聞き、祖先の偉業に今更のごとく感銘を深くした。

農業をとりまく社会的経済的諸条件の急激な変化に対処し、農民の協同組織として農協の健全な発展をはかるため、境、笹川、泊、五ヶ庄、南保、各農協が合併し、朝日町中央農協として発足することに協議が整い、去る二月十二日合併予備契約調印が行なわれ、また、二月二十六日に五農協が一斉に合併のための総会を開催し、四月一日より朝日町中央農協協同組合として発足することに決議されました。

組合員二、三八九人で結成される中央農協が今後、事業経営の拡大に併せ、農業生産力の増進と、組合員の社会的経済的地位の向上に寄与され、併せて新農協の発展を望みます。

6. 移動学習では、南保公民館の近代的設備と、その運営を訪ね、ま

た、宮崎城址を中心とする県定公園の規模、境関所跡や一里塚、特に、宮崎浜山玉造り遺跡やその出土品や発掘の状況等についてのスライド学習により、わが郷土に対する愛着を深め、私達と祖先や子孫とのつながりについて感銘を新

にした。

7. 学習の時刻について全員が、時刻を厳守し、それに協力する態度が表われ、よくそれが守られたことも大きな収穫の一つであった。

(写真は「郷土の文化を訪ねて」の城山城址における移動学習)



消防署だより

春の火災予防 運動行なわれる

四月一日〜七日

あなたは火事のおそろしさを知らない

朝日町の昨年中における火災発生件数は一〇件で、損害額は約七百万円となりました。

最近全国的に火災が頻発し、多数の人が焼死するという痛ましい事例が増加する傾向にあります。当地方はこれから春季にかけて、北陸地方独特のフェーン現象という特殊気象

に見舞われ、出火率も高く、出火と同時に家の中が火の海となる事も予想されます。

出火の際に備え、主婦等が中心となり家族防災会議を開き、消防署への通報「一一九番」避難の方法等を協議してみては如何がでしょうか。

1. 寝たばこは絶対にしない事。

2. 雪のたの破損した煙突は早く見つけて補修する。

3. 老人、子供、病人は、つとめて階下に寝かすようにする。

4. 外出や寝る時は、必ずもう一度火の元をたしかめる。

5. 火災は初期であれば、わずかの水で消す事が出来るので、普段からバケツに水を準備しておく事。

6. 火災が発生し、避難する時は、老人、子供、病人、等を先に避難させ、避難する際は姿勢を出来るだけ低くする。

7. 電話で火災を知らせる時は、場所目標、状況、をわかり易くつげる事、火災の時の電話番号は「一一九番」です。「二一〇〇九番」でお願いします。

春の火災予防運動
一、期 間 四月一日〜七日
一、子防査察 期間中に消防署員団員等による各戸査察が行なわれます。

一、サイレン吹鳴
朝七時、夜九時、の二回
15秒鳴6秒休 三回

火災の際、現場は非常に混雑しており、消火活動のさまたげになりますから、自家用自動車、オートバイ自転車等は現場近くへ乗入れないでください。

消防車がサイレンを鳴らして近づくて来た時、運行中の自動車等は、道路の左側によって停止し、消防車の通過を待ってから、運行して下さい。(消防署)

野も山も庭も緑に 緑化に協力しよう

― 苗木即売会案内 ―

今年も四月一日より全国挙げての緑化運動が展開され、緑化の推進計画が組まれております。

ことしは天皇、皇后両陛下をお迎えして、五月二十六日砺波市類成山において、第二十回全国植樹祭が行なわれます。

緑化の推進は、治山、治水に、また環境衛生上欠くことのできない事業でもあり、年々わが朝日町も、皆様の協力のもと緑化されつつあることは、まことに喜ばしいことです。この緑化週間に呼応し、次により苗木即売会を開催しますので、全国植樹祭を記念する意味において、山に、家庭に一人一本必ず植栽しましょう。

記

一、日時 三月二十九日(土曜日) 一日限り

二、場所 朝日町役場前

三、主催 東部林業協会

朝日町緑化推進委員会

魚津農地林務事務所

朝日町役場

朝日町森林組合

町内小・中学校 卒業式と入学式

卒業式

三月十七日 泊中 小川中
三月二十日 大家庄小 山崎小
泊小 宮崎小

三月二十二日 南保小 五箇庄小
笹川小 境小

入学式

四月二日 小学校全校
四月四日 中学校全校



町民スキー大会

― 第十三回町民スキー大会 ―

二月九日 三峯スキー場

団体成績 (種目 大回転のみ)

小学校男子 優勝 南保地区

次勝 宮崎地区

小学校女子 優勝 南保地区

次勝 五箇庄地区

中学校男子 優勝 山崎地区

次勝 五箇庄地区

中学校女子 優勝 南保地区

次勝 泊三地区

一般男子 優勝 南保地区

次勝 泊三地区

次勝 五箇庄地区

次勝 南保地区

次勝 五箇庄地区

次勝 南保地区

次勝 五箇庄地区

次勝 南保地区

次勝 五箇庄地区

次勝 南保地区

次勝 五箇庄地区

次勝 南保地区

次勝 五箇庄地区

次勝 南保地区

次勝 五箇庄地区

次勝 南保地区

次勝 五箇庄地区

次勝 南保地区

次勝 五箇庄地区

野鳥を飼うには

許可をうけて

最近、小島の飼育熱が高まりつつありますが野鳥を無断で飼養していると6ヶ月以下の懲役か、3万円以下の罰金に処せられます。

許可証なしで既に飼っている人は左記により申請期間を設けましたから必ず届け出て下さい。許可手数料は1羽につき年間 150円です。

記

期 間 昭和44年3月15日より3月30日まで
受付先 朝日町役場産業課
飼養許可の必要な野鳥
ウグイス、メジロ、ヤマガラ、ホオジロ、ヒバリ、マヒワ、ウン

中学校

男子 一位 広田慎一郎(五箇庄)

二位 小杉義弘(山崎)

三位 長井 進(笹川)

女子 一位 河村雅子(五箇庄)

二位 河村淳子(五箇庄)

三位 大森美和子(南保)

一般男子 一位 番場三男(泊三)

二位 深松博幸(笹川)

三位 土井 茂(南保)

郡民体育大会第二回スキー競技会

二月十六日 宇奈月スキー場

(種目は各部とも大回転のみ)

中学男子 二位 広田慎一郎(泊中)

女子 二位 河村雅子(泊中)

一般女子 一位 本田明子

少年の部 二位 大浜清光

一位 目付秀信 二位 勝原 昇

青年の部 (一部) 三位 藤沢義弘

二位 瓜生俊成 三位 山崎泰次郎

成年の部 二位 藤沢義弘

八回町民バスケットボール大会

二月二十四日 泊中学校

男子 優勝 泊一区 次勝 泊二区

女子 優勝 泊一区 次勝 泊二区

次勝 泊一区 次勝 泊二区

次勝 泊一区 次勝 泊二区

次勝 泊一区 次勝 泊二区

次勝 泊一区 次勝 泊二区

次勝 泊一区 次勝 泊二区

次勝 泊一区 次勝 泊二区

次勝 泊一区 次勝 泊二区

次勝 泊一区 次勝 泊二区

次勝 泊一区 次勝 泊二区

次勝 泊一区 次勝 泊二区

次勝 泊一区 次勝 泊二区

次勝 泊一区 次勝 泊二区

次勝 泊一区 次勝 泊二区

善意のまど

続々と美徳の滴

昨年十二月から今年一月までに、朝日町善意銀行に預託された方々の氏名を公報紙上に表出し謝意を表します。(敬称略)

一、勝原美由樹 (南保、越)

二、家庭募金 一、五八八円 (笹川)

三、竹内秀樹 (富山市) 四〇〇円

四、新聞原稿料 四〇〇円

五、中井きよ (富山市) 二、〇〇〇円

六、小川、大家庄、保育所指定寄付 二、〇〇〇円

七、匿名 一、〇〇〇円

八、花グループ (横尾) 三、〇〇〇円

九、花売上げ代金 (本町) 一、〇〇〇円

十、賞品と引替えに残玉を募金箱に入れた玉金 一九、〇二〇円 (下町)

十一、畠山 明 一、〇〇〇円 (宮崎)

十二、松本正美 (中町) 九七二円

十三、貧しい人へ (二円玉) 九七二円

十四、広幡莊蔵 (三浦町) 六、〇〇〇円

十五、年未助け合い大売出し利益金の一部 五、〇〇〇円

十六、八日会 (泊) 六、〇〇〇円

十七、寄付金 (三浦町) 六、〇〇〇円

十八、福祉事業に 六、〇〇〇円

十九、以上

郵政局の窓口

ごぞんじですか

○年賀状で知人の郵便番記号を記録しておきましょう
年賀状の交換で、あたりに相手の郵便番号がわかったものなど、住所録に記録しておきましょう。

○転居された方は郵便局へも転居通知を
住居の移転や近く転居される予定の方などは、郵便局へもご連絡ください。されれば郵便物の迷子はできません。

郵便貯金五兆円を突破

郵便貯金の現在高は本年二月七日遂に五兆円を突破しました。明治八年、発足以来九十三三年間に積み上げられたこの巨額な郵便貯金は、国民経済の発展や国民生活の向上のために使われています。

朝日町においてもいままで約四十二億円のお金がいっている面に融通されています。

どうか今後共郵便貯金増強のためご理解、ご協力をおねがいします。

○書き損じたものや、出し残し年賀はがきは普通のはがきと交換します
宛名を書き損じた年賀状や、余す

特集

明治100年を語る座談会

△その四▽

昔の新聞社は

政党の言論発表機関

自由民権運動と新聞

広川

山岡さんはその頃盛に政談演説などやられたんじゃないですか。

山岡

いやあ、政談演説の親方はここにいますよ。(谷口松次郎氏を指す。笑い)

広川

先ほど話に出ました河村政治は私の家内のおじいさんにあたるんですが、この人によく聞いたものですが、十五・六才の頃から政談演説をやったそうです。そういったことから考えてその時分に自由民権思想に関係する運動家が、この地方に相当いたものでしょうかね。

野島 自由民権運動

というのは教科書的に言えば、明治六年頃から始まることになるんですが、そこで自由民権運動ということばですが、国会単位のものか、あるいは市町村単位程度のものか、ということになるのですが、市町村単位程度の自由民権運動家は明治十年代にはもういました。

司会 国会単位の自由民権運動家はやはりいたんですか。

野島 国会単位では、やっと明治十五年から十六年にかけて、入善の米沢紋三郎さんが、自由民権運動を富山県分離の形で出されたわけですね、この間私はNHKから頼まれて米沢紋三郎さんについて語ったんですが、あれはやはり、自由民権運動というふうに分県運動と別にされた方がいいんじゃないかといったんですけれども、富山県の自由民権運動らしいものは黒東にはないんですね。

ただ、さっきも言ったように明治十年代に、小沢両家とか、伊東家がでておられますけれど、そうはつきりとして自由民権運動に入っておられないんじゃないかと思うんです、先ほど山岡さんがおっしゃいましたように、ただ議員だ、議員だと言うのが、明治の中頃までの議員は本当に町の為に尽す、場合によっては政府を相手に対抗し牢獄へ投ぜられてもかま

わない、そういった気概をもっていたんです。それから明治の二十年から明治の終りになると、牢獄には入れられないように国や町村のために働くといったようなところで、先ほど申し上げた、十年代の両小沢さんや伊東さん、二十年代の河村政治さんや阿部さんなど、県や町のためにやるという気迫はあるが政府と斗か

つてもという気概はなかったと思います。それから二十年代になって河村政治さんや、いまの阿部齒科医さんのおじいさんあたりが、県議会に出ておられますが、この人たちも町のために尽そう、国のため尽そうという気概は十分見えていますけれども、政府と戦い、あるいは牢獄に入っても、という気概はなかったように思います。

町村単位の自由民権運動に至っては、もつと小さなもので、これは部落のために働くというふうなもので自由民権運動というのはちょっと大げさじゃないか、と思うんです。

大平一 やはり地域代表性とか、利害関係の結びつきだとか、そういうふうなもの、地方へくると出てくるわけですか。

野島 え、そうですね。

新聞は政党の機関紙であつた

司会

県下における自由民権運動というのは相当盛であつて、それが次第に言論の発表機関として新聞社を作ったり、本を出版したりしていたの

が戦後は国民の公器として全く中立的な立場になって新聞社というものが政党から離れて独立したというような見方をしているんですが、広川さん、大体そんなものですか。

広川

そうですね、結局、政治から出発して新聞ができていますよね。

まあ政党の機関紙でしたら、富山県も、もちろんそうであつたし、それから各大きな町あたりに小さい新聞ができたのも、大てい背景には政友会系、憲政会系というような形になつていたようですね。

大平一

今の新聞とはかなり性格がちがつてくるわけですか。

広川

え、報道ではなく、一つの主張とか、そういったものをのせていたわけですね。

苦しかった戦後の社会主義運動

司会

戦後になって、特に社会主義運動というものが非常に盛になつてきたわけですが、これについて谷口さん実際に活動されました立場で戦前戦後を通じて何かありましたら……。

谷口

私はまことにお恥しい政治運動をやった者でもあるし、また、大衆運動もやった人にも言われていますが、この席には、理論的には私よりもたぶんさんおられますが、

実際運動に対して谷口は、こういう奴だというところへいったという

ことは、私は旅から朝日町へ来て住んでおりますが、この町において、昭和二十年から、マッカーサー司令部へ、いろいろの履歴書やそのほかのものを出したりした者は私一人だと思っています、理論的には社会主義とか、思想的にまとめられる人はたくさんおられますが、ほんとうの政治活動を言える人は少いと思います。

壇上に立つて話される場合でも何でもしようずに言っておられますが、谷口松次郎ほど、偉い人、そうでない人を言わずに一本立ちに立ち上つたということは、これはホウを吹くのではないですが、実際のあり方を見てです、まあ議員になられた方もおられますが、いかに苦勞したか恥をかいたか、人に何をしているのかと言われてまでもやったことは事実であります。

ここへ細川さんも来ておいでになります、偉い人は東京にいて裏づけの文章を出しておられる、また、あなた方は社会主義の何であるかはちゃんと知っておられる、知っておられるけれども、自分の地元へきてやることはなかなかだったもので、私がこうして進むのに、あなたのお名前を貸してほしいとたのんでも、喜んでやってくれる人はなかったです、私のやっていた間の事実です。いまになつたら平均化してしまつて、誰でもみな、社会的にこうなんだというふうになつておられるけれども、私がやった頃は占領軍がいともっともきびしいものがありました。

お前は、大政翼賛会の幹部をやっていたとか、お前は何をしていた、

社会学者 細川嘉六氏の難

日本の亜細亜拡張の針路を示唆して名著「植民史」及び、「世界史の動向と日本」が災い

— 紋左事件(泊事件)の由来 —

司会

谷口さんは主として戦後の運動で

ごさいますけれども、それ以前に自由民権運動や、いわゆる社会主義運動と関連して、町出身の社会学者であつた細川嘉六さん、もう亡くなられましたけれども、細川嘉六さんに關していろいろ朝日町として後世に残るような話もあります。

ちょうど弟さんの直次郎さんもおいでになっていましたし、また、細川嘉六さんを中心として紋左事件などというものも皆さんのご記憶に残っているだろうと思います。細川さん紋左事件について何かお話を聞かせませんか。

細川

ちようどこに紋左のおかみさんが見えておられて、何か持ってきておいでようですが、そのほかに何か状況についてですか。

司会

田んぼをどれだけもっているとかいうことで、社会党の党員になることだつたんですが、私は下新川と自体も、富山県にきていた米軍のマイットコーカーという少尉も容易に認めてくれませんでした。

それから、私が入るときでも、増山直太郎さんなんか、あんな保守党にいたような奴は入れられないということだつたんですが、私は下新川に五十名の党員を添えて、マツカーサー司令部の承認を得て下新川支部というものを作りました、その後のことは時間の関係で省略させていただきます。

野島

そうですね、「植民史」という大変立派な本を出版されたんです、それのお礼ということでこられたんじゃないですか、たしか十七年七月のはずです。

柚木

そうですね、ゆかたを着ておられました。

細川

それで、私の所へ晩方、あれは三笑で一ぱい飲んでいたのかな……。

柚木

それは、親不知へ行つての帰りで

細川

そうですね、あの昭和十七年だつたかと思うんですが、空襲がくりかえされているようなときに、私の兄がつれてきた若い人たちね、四人おられたでしょう。

柚木

そうですね、五人ほどだつたでしょうか。

野島

六、七人おられたんじゃないでしょうか、満鉄調査部だけでも四人ぐらいおられたんじゃないですか。

細川

それに、改造社とか東洋経済社からもきておられたと思いますがね。

柚木

改造社からもきておられました、働いてもらったので、新しい魚を私の所で食べさせてあげるといつてこられたのです。

はい。

司会

まあ、こりう関係で、ここにおいでになる紋左のおばあちゃんも証人なんかでしばしば警察、あるいは検事局などへ引っぱられましたそうですね。

柚木

え、横浜から、三、四回も検事、判事がきて、その度に出てこい出てこいで、何回でもつながれていたものです。

細川

最後の止めか、私に聞きたいと云つてね、横浜から来たことがありますが。そのときに、隣の部屋でだれか聞かれていたかというところ、もう亡くなりましたが、三笑のおやじさん、あの人は大きい声でどなられていたけれども、小さい声で答えていたですね、(笑い)向うでは、できるだけ自分の方の思惑に引っぱり込もうとするけれども、三笑のおやじは、これは案なもんですわ、「何を言っているんだ」ぐらいの腹で返答しているんですね、声が小さくて、私は隣にいたけれど、わからないような小さな声でした。お気の毒なのは、ちようどそのときに三笑の奥さんが亡くなったんです。

柚木

草野さん入院されて亡くなられましたが、そのときは調べられていたときだったんです。

草野

ああ、あのときか、嘉六さんも具合が悪いといつて診にいった、あのときじゃないですか。

細川

そのあと先でしょう。

大昔

細川さん、共産党と細川嘉六さんの関係ですが、嘉六さんは、大学を出られてから、社会科学の権威者として、大原研究所におられたんですが、そのときは共産党員じゃないと思ひますが。

細川

もちろんです。

大昔

いつごろ共産党に……。

細川

その頃はですね、うの目、たかの目で政府の方で調べていたけれどもシンパという程度でしてね、共産党入党は終戦後です。

著書

「世界の動向と日本」の概要と無暴な軍部の指令

おけ

とにかく危険だから放りこんで

野島

記録に見えているんですけど、先ほど出ましたように、「植民史」という本、民族問題を書いた立派な本です、これを出版された記念に呼ばれたんです。

たしか翌十八年の五月だと思ひますが、そのときにごちそうになった六、七人のうちの一人の満鉄調査部

におりました西沢という人が、当時のことばで、ちょっと赤い、ということと引っぱられたんです、そこで西沢さんの家を家宅捜査をしておりましたところが、ちょうど今司会者の言われた写真がでてきたんです、そこで細川嘉六さんという人が浮び上つてきたんです。

ちょうどその頃、大本営に平櫛という少佐がいたんです、その少佐が思想の方を担当していたんですが、この細川嘉六というのはこの人間だ、ということから調べていまして、どうも共産党員ではなさそうだけれども、どうもその頃書かれた

「世界史の動向と日本」の中に、大東亜戦争そのものを必ずしも非難してはおられないんですけれども、大東亜戦争を遂行して占領したところが、これは植民地にしてはいかんだ、日本政府は、民族問題で一番成功を遂げているソ連の民族政策をまねてやったら成功する、と、こういう文句が、まああるんです。

そうしたところが、この平櫛少佐は、まあ、この人は、社会主義が何か共産主義が何かわからなかったんですが、とにかく危険だ、ということとやっていたところが、神奈川県警では、軍部がそれだけ言うのなら大変である、引っぱつてこい、ということとやったんですが、あの本だけでは当時の判事が言っているように、とても共産主義者だというふうにはならないといながら、とにかく

くまあ、放りこんでおけ、ということになった。というのがいわゆる「泊事件」なんです。

しかし、細川さんという方は立派な人で、大内兵衛さんなんかはめておられます。著書でも、米騒動のとなんかでも多少書いておられますけれども、やはり「植民史」と、最後の「世界史の動向と日本」というのは朝日町としては忘れることのできないものじゃないかと思うんです。

銀行の設立と取りつけ騒ぎ

金融機関の発生と統合

司会

政治のお話も、まだまだ尽きるところを知らずといったところですが、ここでちよつと話題を変えて、流通関係の話にふれてみたいと思います。

明治十年代には日本にも著名な銀行が設立され、二十七年頃には富山県にも、あちこちに銀行が雨後の筍のようにできておりますが、大平さん、何かその話についてごぞんじありませんか。

大平鉄

私の知っている銀行は、現在の北陸銀行のある場所に、泊銀行、それに、現在の梅沢家具店の隣にあった黒東銀行、また中町の所へ来て、前の梅沢家具店の所にあった、竹内銀行でございます。

そして後に、黒東銀行と泊銀行と

が合併されたのがきっかけで、最後に北陸銀行ができた、とそういうふうになっています。竹内銀行はそのままだったんですが取りつけ騒ぎまで起き私の叔父なども大変迷惑そうだったときいております。

司会

大正初年ですか、あのとりつけ騒

農業の先覚者 舟川新の 藤井十三郎氏

明治時代、既に基盤整備の実行と

農業協同組合形式の農村経営の実施

農業の変せん

司会

そうですね、まあ、あとでまた何の話のきつかけで金融の話も出てくると思います。

明治十七年にはじめて県が農業政策に力を入れはじめ、そして明治二十五年にはじめて農会を設置しております、で、いろんな面から、特に米づくりという立場から県も相当力を入れてきている、これに関してです、いろいろ、米の品種改良の問題、あるいは附随した農業経営の問題など、相当年を追って力を入れているようであります。

ここで、明治中ごろから後にかけての農業政策とかいう問題について朝日町の状況を振り返ってみたいと思います。

ちやうど舟川新の山崎さんが見えておいでになりますので、殊に耕地整理につきましては県下でも先進的

ますし、生産の増強にもつながるわけですが、終戦の四〇五年前から人的にも不足し、肥料も欠乏していたため非常に生産が低下して国民も政府も非常に食糧難に苦しんだわけですから。

従って終戦後も、アメリカの救護物資を配給してもらってどうにか命をつないでいたんです。

そこで政府もすぐに増産策を講じなければならぬというので、増産第一主義で、いろんな法律を出しました。

土地改良法、それから、北海道、東北、北陸のような、半年近くも雪の中にいるというような町村に対しては、積寒法、等の法律を出しまして、用排水の改修とか、暗き排水、それから農道改修、客土、さらにコンクリート畦畔の構築というような増産対策を講じてやってきたわけであります。

それに加えて、化学肥料、農薬など非常に新しい効率の高いものがどんどん出てきまして実際に米は非常に増産しております。

私たちの青年時代の倍以上の米がとれているんです。

なにも政府はうろたえることはいらないものですけれど、研究不足というものが、とりわけ、以前に河野さんがおられたときに、どうして食糧法を改正しなければならぬ、米はあまるようになってきた、

ということを言われたというので農

民団体が非常に反撃してきたんですけれども、やはりことしの豊作などから食糧法を改正しなければいけない、このままではどうするか、こういう問題がでておまして、どうしても食糧法は改正になるんじゃないかというのを、私たちは覚悟しているようなわけなんです。

増産対策は、そのほかにですね、各農業改良普及所に、農業改良普及員というものがおまして、いろんな農業改良の問題を研究し、普及しており、また共済組合もあって、災害のときの共済事業、さらに病虫害対策というように進められており、とにかく米はたくさんとれていきます。

司会

明治三十二年にはじめて県が耕地整理というのをやっておりますが、その数年後の明治三十五年に舟川新地区が非常に近代的な耕地整理をやっておりますが、あの時代にあのようなことをよくやれたもんだと思うんですが、そのことについて。

山崎

昭和三十六年に農業基本法というものができるまで、それに基いて基盤整備をやっておりますけれども、ちょうど私の所に藤井十三郎さんという方がおられまして、明治三十一年に耕地整理に先んづいたと記録に書いてあります。

そのときは、一反歩区画の耕地整理でございますけれども、その頃と

して珍らしいことには、村の真ん中に幹線道路を作りまして、その両側に民家を集めたということです。

そして衛生はもちろんのこと、その頃は既に時計はあったんですが、天気の良い日は磁石を出して針を太陽に合わせて、お昼になると太鼓をたたいて十二時を知らせたものでした。それから、共同浴場はもちろんです。それから、倉庫を建て、肥料の共同購入、米の共同出荷もやりました。

それから、そのときに副委員長をやっておられた山崎市次郎さんが、昨日県で表彰を受けておられるはずで。

まあ、そんなわけで消防ポンプも購入するし、今からみると、農業協同組合のような組織が動いていたんじゃないかと思えます。当時組織があったのか、なかったのかわかりませんが、あとに残った私たちは非常にうまくやっているわけです。

まあ、現在農業基本法に基いて基盤整備をやっておりますけれども、政府の実際の考えでは、これは第一段階ではなからうかと私は考えています。第二段階、第三段階というのは政府は考えているんだと思っておりますけれども、果たしてその通りに農業が動くかどうか知りませんが、そう思いますね。

特にまた食糧法の問題もございまして、農民も今までのような楽なわけにいかんのかなという一度考え直さなければならぬんじゃないか、こういう風に考えているわけ

ございます。

朝日入善地区を美田化した四千石用水と舟見野用水

伊東彦四郎翁の偉徳

司会

ところで、農業の発展につきまして一番根本的なものは用水の問題だと思っておりますが、四千石用水や、舟見野用水の建設について、当時の関係者の方々は非常に苦労をしておられますが、先ほど申し上げた、舟川新地区に耕地整理が行なわれた時代に、こちらの方に大水害がありました。ね、小川、境川などが一斉にはんらんして大洪水になった記録などありますが、そのようなことがらに連れて、用水問題について、富岡さん何か……。

富岡

四千石用水の名称はどこからきたかと申しますと、その用水の灌漑草高を集計したものを言うわけでした、いまの大家庄用水、昔は下山用水、この用水が開さくされてからおよそ二百年後に着手されたという聞いております。

それまでは、野中地区は舟川の沿岸だけが開拓されていて、あとは不毛の地だったわけです。

用水は、愛本橋の下から取り入れて、延長約二里、南北に一里開き、延長約二里、南北に一里開き、野中の西中という所で東西に折れて一里、山崎にまで入って

舟川に放流されているわけです。

取り入れ口は黒部川の本流をせきとめて作られたため、毎年春先には数百人の人夫を繰り出して大変な苦労だったものです。

今はその水路も、発電に利用され水揚げの苦労も全くなくなりました。ことは全く今昔の感にたえません。

司会

用水が完成したのはいつころですか。

富岡

下山用水が四五〇年ぐらい前にできているんですから三百年近くになりました。

山岡

いま用水関係のお話が出ておりますが、関連しまして、伊東彦四郎さんが舟見野用水を作っておられますが、伊東礼三さんの何代前の彦四郎さんですか。

伊東

四代ぐらい前かと思えます。

山岡

そうしますと今からどれくらい前ですか。

伊東

一六〇〇七〇年前じゃないかと思えます。

山岡

そうすると、四千石用水はその前にできたことになりすね、そこで話をそらすようですが、ずっと前に舟見野用水のタイムツをつけた大きなお祭に列席したことがあるんで

すが、そのときに非常に感銘したことをいまでもおぼえておりますが、

舟見野用水というのは、もともと密林のようなところを、伊東彦四郎さんが、前田侯の命をうけてあそこへ集水されたわけですが、この偉大な業績に対して、舟見野用水のお宮では今でも盛大なお祭をしているんですが、このような朝日町の先覚者であり功労者である人を、朝日町としては行在所の保存も大切ですがこういった先覚者の遺徳をしのぶものを残すべきだと思えますね。

司会

大安寺の境内に顕彰碑があることはあるんですが。

山岡

あるんですか、これは認識不足でした。赤面の至りです。

司会

やはり附随して一年に一回ぐらい何か顕彰的なことを行ってもいいと思えますね。

野島

いま、伊東彦四郎さんの話が出ましたが、町の教育委員会では、お墓を文化財に指定しましてね、常光寺のところに掲示があります、それから先ほど山岡さんの質問に伊東さんがお答えになっておりました一七〇年というのは結構だと思えますけれども、四代前とおっしゃったようにおぼえているんですが、六代前なんです。

福祉のまど

国民年金

保険料は
はやめに納めましょう

月二五〇円～三〇〇円
ねんきん保険料が
あなたの将来を守ります

国民年金の保険料を納めたが、せつかく加入していても保険料を納めない人はその恩恵をうけられなくなりす。

たとえば、年をとつて働けなくなつたときに受ける老令年金や、ケガや病氣になつたときに受ける、障害年金、また夫と死別したときに受ける母子年金なども一定の期間、滞納がなく納めていなければ受けられせん。また近年、生活水準の向上にともない今年は年金額の大幅な引き上げをはじめ制度の内容もいろいろと改正するよう検討が進められていきますので、納め忘れている人は、すぐに納めることが肝心で、もう一度年金手帳をお調べください。

子供を

交通安全から守ろう

交通安全のしつけ

子どものいたまじい交通事故を防ぐためには、学校ばかりに安全教育をまかせないで、家庭でのしつけこそ大切です。とくに新しい一年生には、徹底した安全のしつけをしたいもの。

まず、外出するときは、行先を必ず聞き、帰宅時間を厳守させましょう。

朝は、出かけるまでに十分な時間を取り、あわてて登校しない習慣をつけること。厚着だと身の動きがにぶくなるので、きちんとした軽装

で。しつづけるときは、ただの保護でなく、子どもの自主性も育てるよう。同時に子どもの性質に応じたしつけ方をすることです。

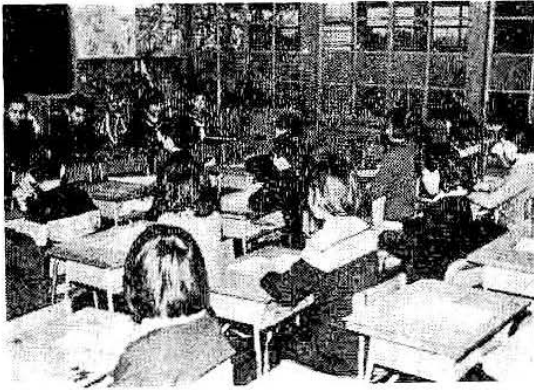
学園ひろば

中学生との懇談会

もうすぐ卒業。そして中学入学。大きい期待と多少の不安を抱く小学六年生としては中学の様子を早く知りたいという願いの表われとして自校出身の中学先輩を招いて二月二十四日座談会を開いた。

中学校側からの次のような事柄について説明をきいたあと、先輩に対する質問が活潑に行われた。新しい教科英語技術について、学校のきまり、クラブ活動、自転車通学に、服装等質問をうける先輩もたじたといいたところ。僅か一時間ではあったが極めて有意義であった。

△写真はV南保小学校における対談風景

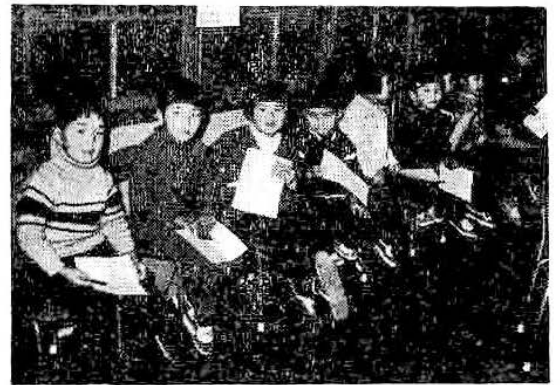


△写真V

就学児の半日入学風景

もうすぐ一年生

就学児の半日入学



四月より新しく小学校一年生として入学する児童のために、各校では健康診断や半日入学をして、就学児の心身の状況を把握し、適正な指導を行っているが、この程行われた泊小半日入学によると、今年の新一年生は身体的には普通であるが、言葉づかいがよく、はつきりしていて正しい学習へ立ちむかう態度がよくできている。ただ、えんぴつの持ち方書き方がよくなかった。

泊小では、自分の力で自分の道を切り拓いていくたくましい勇気のある子どもを育てたいと願っている。そのためには、一年のときからたたきこまなければならぬ。教育は、子どものすばらしい本質を引き出すことであり、テストの成績などにこだわらないで、一人一人を尊重して子どもなりの人生を充実したものにしてやってほしい、とのことであつた。

「明治をしのぶ郷土の今昔」を終るに当たつて

昭和四十三年は、明治維新以来、百年、広報「あさひ」は、この日本歴史の中の近世における一大変換期をとらえて、郷土朝日町の発展変遷のあとをふりかえることにした。

四月号(一五二号)の冒頭のことばとして、わがふるさとを、政治、経済産業等あらゆる角度から、ふりかえて見て、そしてあらたなる希望と決意のもと、新時代建設にまい進する朝日町の一指針たらしめようと試みた。

この企画を一応終了することの出来たことについて、ご協力、ご支援をたまわつた各位に対し深甚の敬意を表するものである。

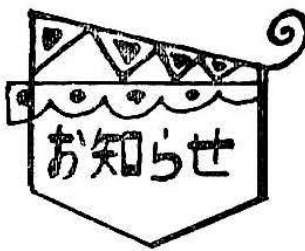
この「明治をしのぶ郷土の今昔」の企画に花をそえてもらったのは、これに呼応するかの如く、十一月三日(かつての明治節の日)に開催された、明治百年を語る座談会の記事であつた。十二月の企画でつくせぬ面はこの座談会によつて、一応カバーすることができたといつてよからう。

朝日町の全世帯に月々、配布される広報を、町民各位により親しみのあるものにしていくために、標題写真やそれにもなる記事の企画は、編集委員会として骨の折れることなのである。町民各位の、助言、支援を期待するに切なるものがある。

編集委員長 九里道守

◆美術刀剣等の登録について

三月から県下の美術銃砲刀剣類の一斉調査が実施されることになっていきます。未登録のものや新たに譲受けたもの、相続により取得されたもの、住所を変更など該当の方は富山県教育委員会の社会教育課に手続きをすませて下さい。手続き用紙は朝日町教育委員会に準備してあります。



3月の人権相談

- 1.日時 3月17日(月) 午後1時から3時まで
1.場所 朝日町職工会館

◆巡回交通事故相談所

日時 三月二十日 午前10時から午後三時まで

場所 朝日町中央公民館

交通事故により被害を受けた人、又はその家族からの損害賠償、更生援護等の問題をお持ちの方は気軽に相談ください。(総務課)

編集兼発行 朝日町役場
印刷所 高田印刷
送料 六六円
定価 六六円
郵便番号 九三九一〇七